

松島中の全校生徒 シトラスリボン作り



たくさんのシトラスリボンで完成させた「CAN」の文字の旗



黄緑色のひもでリボンを作る生徒たち（写真の一部を加工しています）

松島町松島中（生徒272人の全校生徒が、新型コロナウイルスの感染者や医療関係者を差別しない「シトラスリボンプロジェクト」に賛同し、活動のシンボルとなる黄緑色のリボン作りに取り組んだ。リボン作りは生徒会が企画し、昨年12月25日にあった。全校集会でプロジェクトの概要を説明し、クラスごとにひもを配布。生徒たちは三つの輪ができるように結んでリボ

「コロナ差別しないで

「考えるきっかけに」

ンを作成した。生徒はそれぞれ二つのリボンを作り、一つは名札などに着けた。もう一つは生徒会で集め、布に一つ一つを取り付けて生徒会のスローガンの「Challenge And Next」（挑戦そしてその先への頭文字「CAN」）をかたどった。

生徒会長で2年の佐々木音佳さん(14)は「感染してもお帰り『ただいま』と温かい気持ちで迎えられ方が安心して生活できる。差別について少しでも考えてもらうきっかけにしてほしい」と話した。プロジェクトは昨年4月、

愛媛県内の市民グループの呼び掛けで始まり、松島町は12月に参加を表明した。愛媛特産のかんきつをイメージした色のひもを、三つの輪ができるように結んだリボンが象徴となる。

輪はそれぞれ地域、家庭、職場（学校）を意味し、コロナの感染が確認されるなどした後、安心して戻って来てほしいという願いが込められている。